

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	閉塞性無精子症患者に対する精子採取術によるアウトカムに関する探索的研究(単一施設、後ろ向きコホート研究)
研究責任者	聖隷浜松病院 生殖機能医学科 脇 政順
研究実施体制	研究施設： 聖隷浜松病院
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2026 年 3 月 31 日
対象者	【対象患者】対象は2006年1月から2024年12月までに当院にて男性が閉塞性無精子症のためMESAまたはTESEを施行し、得られた精子を用いてICSIを行った患者さん
研究の意義・目的	閉塞性無精子症(OA: obstructive azoospermia)は、精路の閉塞により精液中に精子が存在しない病態です。治療としては、経皮的精巣上体精子採取術(MESA)または精巣精子採取術(TESE)を用いた顕微授精(ICSI)が一般的ですが、精子採取部位の違いがその後の受精率、胚盤胞到達率、妊娠率に与える影響について、国内における大規模な解析は少ないです。 本研究では、当院で施行された MESA および TESE 症例を対象に、採卵周期・胚移植周期ごとの受精率、胚盤胞到達率、妊娠率、出生率などを後方視的に解析することで、閉塞性無精子症における精子由来の治療成績を比較検討します。これにより、患者さんへの適切な説明および治療方針決定の一助とすることを目的とします。
研究の方法	【方法】対象患者さんについて、診療録から以下の項目の調査を行います。 【主要評価項目】 MESA、TESEによる精子回収術別の受精率、胚盤胞到達率、臨床的妊娠 【副次評価項目】 生化学的妊娠率、児獲得率、出生児体重、出生児apgar score、出生児NICU入院および、新生児奇形の有無、新生児臍帯血ph
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 生殖機能医学科 脇 政順 TEL:053-474-2222(代表) 生殖機能医学科外来 9:00～17:00 平日